

中国 IT 市場 ナビゲーター

(1) モバイルネット利用者も世界一に

野村総研(上海)咨询有限公司

2006年2月末、中国における携帯電話利用者数がついに4億人を超えた。欧州連合（EU）諸国の人口の総和に匹敵する人が中国一国内で携帯電話を利用している計算となる。史上最もパーソナリティが高いといわれる携帯電話の市場規模は、各国の例を見ても人口の大きさに正比例する。貧富格差のある中国で全員が携帯電話を持つとは考えにくいだが、まだまだ膨大な規模の市場が眠っているのは確かである。

中国の携帯電話利用者数が世界一になったのは02年であり、05年現在で既に日本の4倍の規模に達している。増加のスピードは緩まることなく、10年には6億5000万人の人が携帯電話を利用するようになると野村総合研究所（NRI）は予測している。

モバイルネット利用も毎年倍増、10年には4億人に

そして05年を境にもう一つの世界一が生まれようとしている。モバイルインターネット利用者数である。モバイルインターネットサービスは日本のiモードから始まりこれまで日本が世界をリードしてきた。これまでは利用者数でも7000万人以上を誇り、世界最大規模であった。この市場においても06年初めに、中国が世界のトップに躍り出た。中国におけるモバイルインターネット利用者数は毎年2倍に拡大する勢いで増加しており、04年で4200万人、05年末には9000万人に達している。この拡大の勢いはとどまることを知らず、10年には4億人を突破する。

今年は携帯コンテンツ元年

ただし、現在のところ、中国ではモバイルインターネットサービスは日本ほど一般的なサービスではなく、そうしたサービスが利用可能な端末を保有しているにもかかわらず、一度も使ったことがない利用者が多数いる。また、日本のようにiモードやezwebを誰もが使うような市場環境ではない。現在のところ、そうした対応端末の保有者のうち、1割から2割の人がモバイルインターネットサービスを継続的に利用しているもようだ。この利用率も増加傾向にあり、10年には5割程度にまで拡大すると予測されている。

このようなモバイルインターネット利用者を背景に、06年は、“携帯コンテンツ元年” となりそうである。今回は、コンテンツの市場規模について述べたい。（総経理 中島久雄）

